

5

理科教育の充実につながる スペース

実験室は物理、化学、生物、地学の分野の特性に応じて、実験用机・台及び各種設備が適切に配置され、学習集団の規模と数、指導方法等に対応できることが重要です。プロジェクタ等の情報機器の導入も望めます。

実験室の充実



生物実験室の例。生物実験室が2つあり、1クラスを分割して少人数授業を行うことが可能。教師が各実験台を指導できるよう、十分な間隔が確保されている。(東京都市大学附属中学校・高等学校)



プロジェクタを設置した化学実験室。実験の手順や留意点について図示でき、また、実物投影機などを組み合わせれば、教師の演示実験が離れた位置からでも見られる。(銚子市立銚子高等学校)



水栓、流しその他の設備を壁がわに配置した理科実験室。生徒用机を可動なものにし、必要に応じてレイアウトを変更できる。(秋田県立横手清陵学院中学校・高等学校)

体感・体験できるスペース



天体観測ドームと反射望遠鏡。土星の環や星雲が見られる解像度を持たせている。(奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校)



プラネタリウム用のドーム形スクリーンを設置した理科実験室。使わない時は天井に折りたたまれる。(鹿児島県立開陽高等学校)



グループ実験はもちろん、教員による演示実験や講義にも使いやすいよう、生徒機の配置を工夫した物理実験室。光の実験のために暗室化もできる。(郁文館夢学園)



生物実験室の入口の隣に標本をディスプレイした例。(東京都市大学付属中学校・高等学校)